

別表 1 航空通信回線を利用した手続きの際の入出港判定例

例	寄港順序	入力値						提出先空港		備考
		提出先 空港	最初の 出発地 空港	他国から の最終出 発空港	最初の到 着地空港	経由地 空港	最終目 的地空港	入港に 関する 手続き	出港に 関する 手続き	
例 1	MNL（送信元）→KIX→NRT T→LAX			MNL	KIX	NRT	LAX	KIX NRT	-	入港に関する手続きのみになる。
	MNL→KIX（送信元）→NRT T→LAX			KIX	NRT	LAX	△	NRT	KIX	入港と出港双方の手続きになる。
	MNL→KIX→NRT（送信 元）→LAX			NRT	LAX	△	△	-	NRT	出港に関する手続きのみになる。
例 2	KIX（送信元）→NRT			KIX	NRT	△	△	NRT	KIX	国内間国際便（往路）
	NRT（送信元）→KIX			NRT	KIX	△	△	KIX	NRT	国内間国際便（復路）
例 3	FUK（送信元）→KIX→NRT T→NGO			FUK	KIX	NRT	NGO	KIX	FUK	すべてが国内
								NRT		
								NGO		

※「最初の到着地空港」「他国からの最終出発空港」双方が国内空港の場合は、入港と出港双方の情報とみなし、入港に関する手続きは、「最初の到着地空港」、「経由地空港」、「最終目的地空港」に入力された国内港が提出対象となり、出港に関する手続きは、「他国からの最終出発空港」が提出対象となる。